

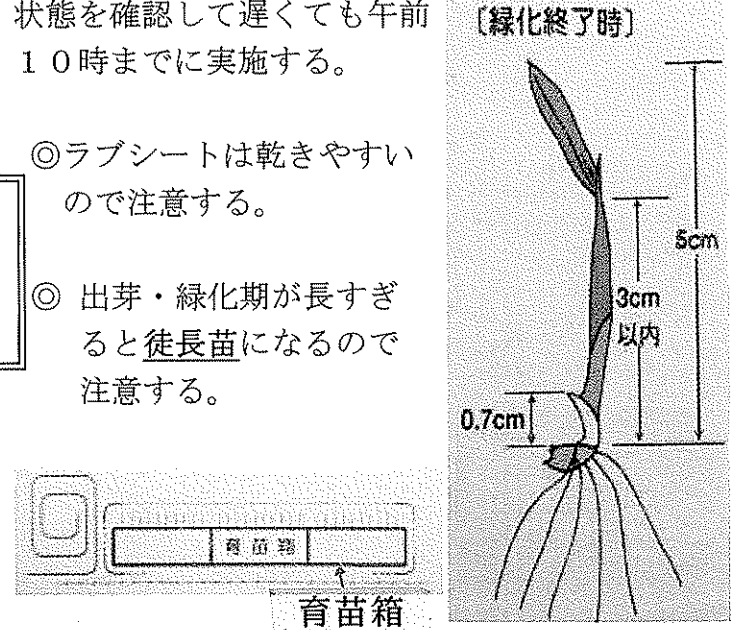
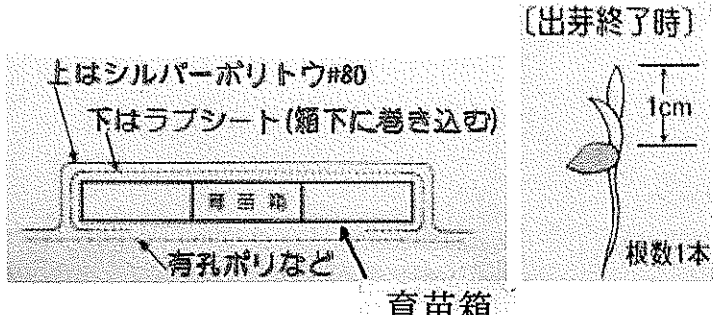
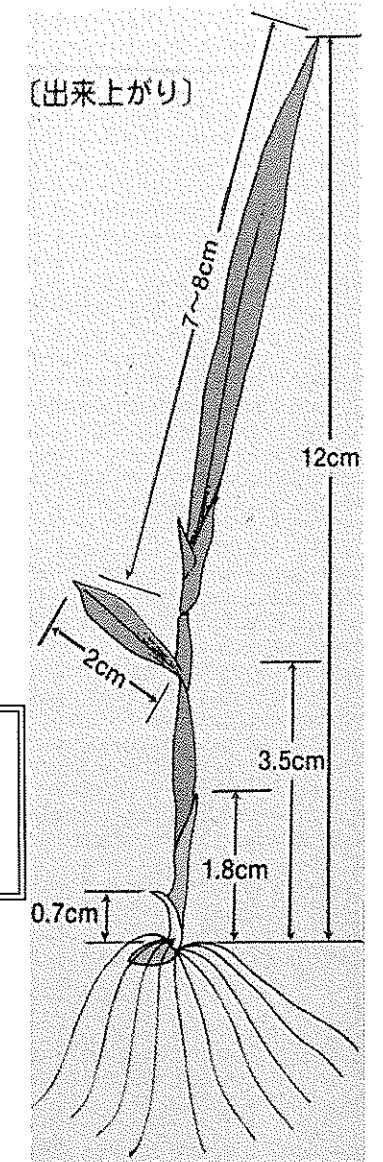
ハウス育苗管理のポイント

- ◎播種前に準備すること 1. ハウスビニールを早めに張り、ハウス内を乾かし地温を上げ、地面が均平になるよう整地する（野菜栽培あととは特に）。
2. 稲わら・籾殻は、いもち病の伝染源になるので、使用や育苗ハウス内、近辺に放置しない。

◎播種適期気温 - 日平均気温が10℃に上昇した頃から播種可能です。平坦地では4月中旬頃。

苗の絵は原寸大です

期間	出芽期		緑化期	硬化期
		加温出芽2日程度	無加温出芽3~7日程度	2~4日程度
温度	30℃ ※細菌性病害の発生を助長するので30℃を上限とする。		昼 25℃~20℃ 夜 15℃~10℃	昼 20℃~15℃ 夜 15℃~10℃
被覆・換気	◎コシヒカリは伸びやすいので短めに終了する。 ◎ハウスには朝方出す。	◎シルバーポリトウとラブシートの二重被覆。 ◎乾燥を防ぐため被覆資材を育苗箱下に巻き込む。	◎ラブシートの一重被覆。 ◎夜間や低温時は二重被覆し保温する。 ◎第1葉が展開したら硬化期に移す。	◎ハウス内の温度管理に十分注意し、中後期は外気温にならず管理をする。 ◎田植えの5~7日前から夜間も換気を行う。
ハウス管理と苗の生育ポイント	◎無加温出芽では、播種時に十分灌水する。 ◎出芽揃時に覆土の持ち上がりが見られたら灌水して覆土を沈下させる。 ◎播種直後でも晴天時には、換気を行う。		◎過湿に注意し、灌水は床土の状態を確認して遅くとも午前10時までに実施する。 ◎ラブシートは乾きやすいので注意する。 ◎出芽・緑化期が長すぎると徒長苗になるので注意する。	◎前半は、1日1回午前中に灌水する。 ◎後半は、1日1~2回灌水する。ただし、夕方の灌水ハウス内と苗の温度を下げるので避ける。 ◎老化苗防止と田植え後の活着を早めるために田植えの4~5日前に苗追肥を行いましょう。



硬化開始

◎液肥を使用する場合			
使用液肥	倍率	1箱当り灌注量	
クマイ液肥2号	50倍	0.5L	

※苗ヤケを起こさないよう、液肥施用後、灌水を行う。

◎専用肥料を使用する場合		
使用肥料	1箱当たり施用量	
べんとう肥	15g	

硬化終了

障害と対策

- 【出芽期のカビ予防対策】 - 出芽期
播種後の被覆期間が長引くとカビが発生しやすくなるので、適期播種を心がける。前年発生したハウスは箱消毒を行う。
- 【苗ヤケに注意】 - 出芽期
ハウスの温度は35℃以上にしない。
※新しいビニールは室温が上がりやすいので要注意。
- 【白化苗】 - 緑化期
緑化終了時まで直射日光を避けるため、ラブシート等で遮光する。
- 【褐条病】 - 緑化・硬化期
播種直後10日間の過剰灌水と高温で助長するので注意。
- 【ムレ苗対策】 - 緑化・硬化期
PHを5.5以上にしない。薄まきを励行。
ピートモスやくん炭を使用し保水性や通水性を確保する。
温度の急変(8℃以下35℃以上)で発生しやすくなるので急激な温度変化を避ける。発生が見られたら早めに田植えをする。

プール育苗のポイント

- ★落水が速やかに確実にできるよう、苗床は均平にする。
※傾斜が大きい場合は、2~3つにプールを仕切って作る。
- ★入水開始時期 - 緑化終了時(葉齢1~1.2L)。
- ★入水時の水深
◎1回目 - 入水は床土の高さまでとする。
◎2回目以降 - 入水時は苗丈の半分以下の深さに。
※苗が水没しないよう注意する。
- ★ハウス内温度
◎慣行育苗より伸びやすい為、入水後は日中・夜間とも、側のビニールを開放する。
※低温注意報が出た場合、又は夜間の気温が5℃以下の時は、側のビニールを閉め、深めに入水し保温する。
- ★落水時期 - 田植えの2~4日前に落水する。
- ★プール育苗の苗は、低温に対する抵抗力が弱いので、低温時の田植えは避ける。

高品質米づくりのポイント

- ★育苗管理
◎2.0葉の健苗を植える。 - 早期活着による分けつ促進。
◎べんとう肥の施用 - 田植え後の活着を早める。
- ★土づくり
◎たい肥の散布 - 阿賀野市では、「ゆうきの子」「阿賀のたいひ」の散布経費の一部助成を行ってます。春のたい肥散布につきましては、最寄りのJAへ相談、申し込み下さい。
◎鉄・ケイ酸質肥料 - 春の耕起前に施用(詳細は、農業指導関係機関等にご相談下さい)。
◎耕起 - 耕深は15cmを確保しましょう。作土層を深くすることによって、根の分布が広がり高温障害に対する抵抗力を高めます。
- ★倒伏防止 - 高地力地帯の基肥窒素量の目安
◎化学肥料由来の窒素のみを含む肥料を使用する場合・2kg/10a程度
◎有機由来の窒素が50%以上含まれる肥料を使用する場合・3kg/10a程度
◎基肥一発肥料を初めての使用や毎年倒伏してるほ場では、慣行施用量(基肥+穂肥)より1~2割削減しましょう。